

令和2年度

事業報告

令和2年4月 1日から

令和3年3月31日まで

公益財団法人 太田記念美術館

I 公益目的事業

1. 浮世絵に関する展覧会の企画および開催

1) 企画展示

太田記念美術館において以下のとおり展覧会を開催した。開館日数197日、特別展1回、企画展5回。
新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、66日間の臨時休館および64日間の開館時間短縮を余儀なくされ、年間入館者数は、当初の目標である73,500名に対し44,644名少ない28,856名(目標対比39%)と、大幅に低下した。

人々の外出自粛が続き、入館者数が激減する中で、SNS等を活用した情報発信を強化し、令和3年1月より「オンライン展覧会」を開始するなど、今後の美術館のあり方を模索し、持続的発展を追求した。

令和2年度	展覧会名	会期	開館日数	入館者数(人)				
				有料	無料	総計	1日平均	うち小中生
企画展	月岡芳年 血と妖艶(前期)	4/ 1～ 4/ 7 ※うち4、5は臨時休館	4	155	7	162	41	0
企画展	太田記念美術館コレクション展	7/ 1～ 7/26	23	2,122	125	2,247	98	21
企画展	月岡芳年 血と妖艶	前期 8/ 1～ 8/30 後期 9/ 4～10/ 4	53	9,404	343	9,747	184	73
企画展	江戸の土木	10/10～11/ 8	26	4,036	242	4,278	165	61
企画展	ニッポンの浮世絵 —浮世絵に描かれた「日本のイメージ」	11/14～12/13	26	2,719	184	2,903	112	33
企画展	和装男子 —江戸の粋と色気	1/ 6～ 1/28	20	2,153	125	2,278	114	7
特別展	没後30年記念 笠松紫浪 —最後の新版画	前期 2/ 2～ 2/25 後期 3/ 2～ 3/28	45	6,683	558	7,241	161	64
合計			197	27,272	1,584	28,856	146	259

入館料 企画展：一般 800円、大高生600円、中学生以下無料

特別展：一般1000円、大高生700円、中学生以下無料

2) 館外特別展示

太田記念美術館、日本浮世絵博物館、平木浮世絵財団の浮世絵版画コレクションが一堂に会する初の展覧会を、東京都美術館において開催した。

展覧会名：The UKIYO-E 2020—日本三大浮世絵コレクション

会 期：令和2年7月23日～9月22日(開催日数58日)

会 場：東京都美術館(東京・上野公園)

主 催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館、太田記念美術館、日本浮世絵博物館
平木浮世絵財団、日本経済新聞社、BSテレビ東京、テレビ東京

入館者数：68,068名

展示作品数：455点

3) 臨時休館による展示計画の変更

4月7日発出の緊急事態宣言を受け、4月8日から6月30日まで臨時休館した。開館を再開するにあたり、感染予防および拡大防止への取り組みの一環として、混雑緩和、3密回避のため、展示作品の間隔を広げ、1階の畳の間および2階のぞきケースへの作品展示を取りやめる方針とした。展示作品の減少に伴い、当初の展示計画を変更し、心が和む作品、病魔に打ち勝つために作られた作品を選びすぐった「太田記念美術館コレクション展」を開催し、来館者の動向を探るとともに展示室内の感染予防対策について再度確認をした。次に開催の展覧会からは、地下視聴覚室を展示室として追加することにより、当初の予定どおりの作品点数を展示した。

臨時休館に伴う展示計画の変更は以下の通り。

展覧会名	対応	会期	
		変更前	変更後
太田記念美術館コレクション展	再開にあたり展示計画を変更	—	7/ 1～ 7/26
月岡芳年 血と妖艶	中断により開催日程を変更	4/ 1～ 5/27	8/ 1～10/ 4
江戸の土木	開催日程を変更	6/ 2～ 6/28	10/10～11/ 8
ニッポンの浮世絵	開催日程を変更および期間短縮	7/ 3～ 8/30	11/14～12/13
江戸にゃんこー浮世絵の猫たち	開催中止	9/19～11/23	—
せつない浮世絵	開催中止	11/28～12/20	—
和装男子ー江戸の粋と色気	変更なし	—	—
没後30年記念 笠松紫浪	変更なし	—	—

2. 浮世絵その他の美術品の収集、保存

1) 美術品の購入

収蔵品の体系的、通史的なバランス、展示計画を考慮の上、版画を83点購入した。

2) 所蔵品の修復

今年度は所蔵品の修復は行わなかった。

3) 収蔵品の保存

浮世絵版画は光に弱く、展示により退色が進むため、作品の展示期間を厳正に管理した。また、温湿度管理、照度管理も厳格に行い、作品保護に努めた。

3. 浮世絵美術ならびに江戸文化の啓蒙普及活動

1) 講座等の開催

新型コロナウイルス感染症の拡大が続く現状を踏まえ、例年実施している江戸文化講座、夏休み子ども講座の開催を中止とした。また、展覧会関連講演会、学芸員によるスライドトーク、若手浮世絵研究者による講演会、日曜映写会も同様に中止とした。

2) 青少年への教育普及活動

青少年への教育普及活動の一環として、美術鑑賞の機会を幅広く提供するため、中学生以下の美術館入場料を引き続き無料とした。また、教育機関の美術鑑賞教育に協力する等、浮世絵美術の教育普及に努めた。

3) 年間パスポート制度

来館者へのサービス向上および浮世絵美術の普及を目指し、「太田記念美術館年間パスポート」制度を引き続き実施した。美術館隣接地の大規模マンション工事による騒音、振動が鑑賞環境へ影響を及ぼす懸念から、年会費を通常7,000円のところ、6,000円に設定した。

令和2年度会員募集期間(令和2年3月)が臨時休館と重なったため、募集期間を1ヶ月間延長したが、会員数は272名と昨年度の4割程度にとどまった。

会員特典は会員証提示により、有効期間内の展覧会期中、何度でも入館可能とし、絵はがき等のオリジナルミュージアムグッズおよび有料講座受講料の会員割引、一年間有効の招待券を5枚贈呈。

4) 館外協力

① 他機関への協力

美術品の貸出を以下のとおり行った。

貸出先	展覧会名	会期	貸出作品・点数
東京都美術館	The UKIYO-E 2020—日本三大浮世絵コレクション	R2. 7.23～ 9.22	版画 150点
大分県立歴史博物館	大相撲力士群像—相撲の歴史と時代のヒーローたち	R2.10.16～11.29	版画 1点

② 調査研究依頼への協力

収蔵品の特別観覧の申請に対し、以下のとおり1件の研究に協力した。

観覧日	観覧者	調査内容
12月 9日(水)	和泉市久保惣記念美術館、霞会館、武庫川女子大学短期大学、思文閣出版 各1名	菱川師房 肉筆画1点

5) 広報活動

① マスメディア

・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、各展覧会において記者内覧会は開催せず、内覧を希望する報道関係者ごとに個別対応をとった。

・展覧会ごとにプレスリリースを作成し、マスコミ各社へ送付した。

・浮世絵関心者層の増加、美術館の認知度向上および展覧会のPRを目的とし、新聞、テレビ番組、雑誌等の取材協力を積極的に行った。主な協力内容は以下のとおり。

掲載・放送日	媒体	内容
5月14日(木)	読売新聞 朝刊	文化面記事「疫病退散 浮世絵に込め」にて当館所蔵の歌川国芳「木菟に春駒」(疱瘡絵)を紹介
7月号 (No.427)	都市出版 『東京人』	特集「橋と土木 浮世絵で歩く」にて「江戸の土木」展紹介記事「江戸はいたるところで普請中」掲載
8・9月号	小学館 『和楽』	展覧会紹介記事掲載 「The UKIYO-E 2020—日本三大浮世絵コレクション」の歩き方史上最強の浮世絵展が始まる!

掲載・放送日	媒体	内容
7月13日(月) 他	読売新聞社運営 情報サイト「美術展ナビ」	展覧会紹介記事掲載 「太田記念美術館コレクション展」、「月岡芳年 血と妖艶」、「江戸の土木」、「和装男子」、「没後30年記念 笠松紫浪」
8月29日(土)	テレビ東京 新・美の巨人たち	葛飾北斎「富嶽三十六景」 取材協力
9月20日(日)	NHK Eテレ 日曜美術館アートシーン	「月岡芳年 血と妖艶」展を紹介
10月14日(水)	朝日新聞 朝刊	「わがまちお宝館」欄 太田記念美術館の活動を紹介
10月16日(金)	ニコニコチャンネル ニコニコ美術館	「浮世絵専門の太田記念美術館を巡り葛飾北斎の作品を摺ってみる生放送」の回にて、「江戸の土木」展を生中継で紹介
1月10日(日)	NHK Eテレ 日曜美術館アートシーン	「和装男子—江戸の粋と色気」展を紹介
3月 3日(水)	毎日新聞 夕刊	文化面Topics 「「新版画」ブーム再燃の兆し」 新版画の展覧会が開催中の美術館として紹介 （「没後30年記念 笠松紫浪」展）
3月 8日(月)	朝日新聞 朝刊	「文化の扉」欄 「「新版画」したたる魅力」 新版画の展覧会が開催中の美術館として紹介 （「没後30年記念 笠松紫浪」展）
3月16日(火)	朝日新聞 夕刊	「没後30年記念 笠松紫浪」展紹介記事掲載

・写真資料の提供を希望するテレビ番組、美術関連書籍、雑誌等に対してその利用目的等を確認の上、貸出を行い、江戸文化、浮世絵美術の普及に努めた。

② 印刷物の製作・配布

- ・令和2年度展示案内を館内にて配布した。
- ・各展覧会のポスター・チラシを製作し、館内にて掲示・配布するとともに、美術館、博物館、教育機関、公共機関等への配布を行い、展覧会、催事の周知に努めた。
- ・第37回浮世絵研究助成の募集要項チラシ(日本語／英語)を作成し、館内にて掲示・配布するとともに、美術館、博物館、教育機関、公共機関等へチラシ配布を行い周知に努めた。

③ ウェブサイト、ソーシャルメディアの運用

◇ウェブサイト

館案内、展覧会、講座等の情報を展開し、年間を通して随時情報の更新を行った。

◇Twitter

- ・口コミによる情報の拡散を狙い、Twitterを活用して展覧会情報、催事等、美術館ウェブサイトと相互に連携した情報発信を積極的に行うことにより、集客力の向上および幅広い年齢層への認知度向上に努めた。
- ・令和2年2月より開始した「#おうちで浮世絵」のハッシュタグとともに収蔵品等を紹介する活動は、すみだ北斎美術館、神奈川県立歴史博物館、那珂川町馬頭広重美術館、広重美術館など、浮世絵を所蔵する美術館を中心に広がりを見せ、美術館全体の普及活動に大きく貢献した。

- ・Twitter社主催の「ミュージアムウィーク」やイギリスのヨークシャー博物館がTwitter上で開催した「キュレーターバトル」などのイベントに参加し、当館収蔵品の魅力を世界に向けて発信した。
- ・Twitterフォロワー数は令和3年3月31日現在143,331名。

◇YouTube

集客力の向上および認知度向上のため、太田記念美術館のYouTubeチャンネルを開設し、動画を配信した。主な配信内容は以下のとおり。

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大が続く現状を踏まえ、スライドトークの開催を今年度は中止としたため、「月岡芳年 血と妖艶」展の開催にあわせ、展覧会鑑賞の補助として、スライドトークの動画10本を配信した。
- ・「超拡大 葛飾北斎「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」」他、所蔵品の紹介動画2本を配信した。

◇note

浮世絵美術普及のため、メディアプラットフォーム「note」による情報発信を8月18日より開始した。

- ・幅広い層の人々が浮世絵に親しみを抱くよう、様々な切り口から、浮世絵の情報、浮世絵師の逸話などのコラム、展覧会紹介記事等を執筆し、無料で配信した。

発信記事数：70本

- 主な記事：「江戸時代のスイカはどのようにカットしていたのかというお話」
「空摺はどのように制作するのか、現代の職人さんに聞いてみた」
「浮世絵が陶磁器の包み紙として海を渡ったのは本当？という話。」
「浮世絵に記された文字を解読してみた」
「太田記念美術館の謎のアイコン「虎子石」①これって何？生き物？」

- ・「オンライン展覧会」と銘打ち、出品作品の画像と解説を有料記事として配信した。記事の料金は、美術館入場料と同一とした(システムの関係上一律、一般の入館料と同一に設定)。

配信を開始した1月13日から3月末日までの「オンライン展覧会」購入件数は650件。

配信開始日	記事名	購入件数	内容
1月13日(水)	【オンライン展覧会】 「和装男子—江戸の粋と色気」展	394	実際の展覧会と連動
1月29日(金)	【オンライン展覧会】 「江戸の土木」展	87	令和2年度開催展覧会のアーカイブズ
2月2日(火)	【オンライン展覧会】「没後30年記念 笠松紫浪—最後の新版画」展 前期	70	実際の展覧会と連動 2/2～25の期間限定配信
3月2日(火)	【オンライン展覧会】「没後30年記念 笠松紫浪—最後の新版画」展 後期	99	実際の展覧会と連動 3/2～28の期間限定配信

6) 他館との連携

- ① 千葉市美術館と連携し、太田記念美術館年間パスポート会員・千葉市美術館友の会会員の相互割引サービスを引き続き行った。
- ② 「没後30年記念 笠松紫浪—最後の新版画」展において、東京都美術館にて開催の「没後70年 吉田博展」(1月26日～3月28日)と以下のとおり、広報協力を行った。
 - ・ポスターの相互掲出、チラシの設置を行った。

・Twitterを活用した相互協力として「新版画対決／吉田博VS笠松紫浪」と題し、同じテーマに基づく展示作品を紹介し合った。

7) 地域との連携

- ① JR渋谷駅、恵比寿駅、原宿駅を結ぶエリアの文化施設連携事業「あ・ら・かるちゃー」に今年度も参加し、館内にて紹介冊子を配布するとともに、入場料の相互割引に協力した。
- ② 東京都が行う外国人旅行者向け観光事業「ウェルカムカード」に引き続き参加した。施設割引特典付ウェルカムカード持参の外国人観光客に対して入場料割引を行うが、当年度実績は0件だった。
- ③ 東京地下鉄株式会社、東京都交通局の行う観光客向けサービス「ちかどく」に引き続き参加し、対象乗車券の提示により入場料割引を行った。

8) ミュージアムグッズ等の制作・販売

- ① 来館の記念となり、来館者が商品購入を通じて美術に親しみ、関心を深めるためのミュージアムグッズ等を制作、販売した。また、展覧会に関連したグッズ、復刻浮世絵版画、浮世絵関連書籍等を受託販売した。当館のミュージアムショップは美術館入館受付と兼ねているため、限られたスペースの中で来館者のニーズに沿うべく、販売商品を考慮のうえ選定し、充実を図った。
新型コロナウイルス感染症拡大による入館者減少に伴い、グッズ等の売上が激減したため、今年度の新たな制作は、「和装男子—江戸の粋と色気」展にあわせて制作の絵はがき2種のみとした。
- ② 当館刊行の展覧会図録「鏑木清方と鯨崎英朋 近代文学を彩る口絵—朝日智雄コレクション」を、佐野美術館にて委託販売した。
- ③ 当館刊行の展覧会図録を東京都美術館にて開催の「The UKIYO-E 2020—日本三大浮世絵コレクション」展において委託販売した。

9) その他

- ① 各展覧会毎に作品タイトル、主だった展示解説について引き続き和英表記を行い、英語版作品リストを作成した。また、英語対応の可能な事務職員が常駐し、外国人観光客の受け入れ態勢の充実に努めた。
- ② 特別展「没後30年記念 笠松紫浪—最後の新版画」展において、会期中2回目以降の来館者に対し、リピーター向け入館料割引を実施した。

4. 浮世絵研究者の育成および助成

- 1) 内外の新進浮世絵研究者育成のため、第37回浮世絵研究助成を公募し、令和3年1月30日、応募11編全てを選考委員会で審査した結果、次の研究テーマ1編を入選とした。
選考委員は、河野元昭氏(東京大学名誉教授)、及川茂氏(日本女子大学名誉教授)、大久保純一氏(国立歴史民俗博物館教授)、大石学氏(東京学芸大学名誉教授)の4名。選考委員の肩書きは選考会当時のもの。

入選者	入選研究テーマ	助成金
染谷 美穂	鳥文斎栄之の画卷研究	900,000円

2) 令和3年3月刊行の『太田記念美術館紀要 浮世絵研究 第11号』に、平成30年度第35回浮世絵研究助成入選者である加藤ゆずか氏、李佳氏の、助成による研究成果に基づいた論文の寄稿を受け、掲載した。

3) 浮世絵研究者の育成を目的として、研究成果発表の機会を提供することにより、研究活動の支援ならびに研究者相互の交流を図るため、例年開催していた若手研究者の講演会は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、今年度は開催を見送った。

5. 浮世絵等の資料収集・整備、調査研究および出版

1) 作品の調査研究

① 展覧会開催やSNS等での情報発信のため、収蔵品の調査研究を行った。また、特別展開催に向けて他の美術館、博物館、ならびに個人所蔵の関連作品の情報収集を行うとともに調査研究ならびに出品交渉を行った。

② 展覧会毎に、来館者の鑑賞体験の充実を支援するための解説パネルの原稿を執筆した。

2) 資料・図書の充実

① 収蔵品の調査研究、図録・リーフレット等制作のため、写真撮影を行った。

② 作品管理の簡便化を図るため、主要収蔵品についてデジタルデータ化を進めた。

③ 展覧会開催および調査研究に必要な図書資料等を購入した。

④ 新収蔵品について作品情報データベース、美術品目録、作品カードの整備を行った。

3) 展覧会図録等の刊行

① 以下の展覧会の開催にあわせ、図録の執筆、監修をし、当館学芸員の研究論文を掲載した。

- ・「没後30年記念 笠松紫浪—最後の新版画」 発行：美術書出版株式会社芸艸堂(令和3年2月)
掲載論文：日野原健司「笠松紫浪の画業—新版画の最後の絵師として」

② 以下の展覧会の開催にあわせリーフレットを刊行した。

- ・「月岡芳年 血と妖艶」展
- ・「江戸の土木」展
- ・「和装男子—江戸の粋と色気」展

③ 『太田記念美術館紀要 浮世絵研究 第11号』を刊行した。

④ 以下の書籍の監修、執筆を行った。

- ・『ニッポンの浮世絵』
監修：太田記念美術館 執筆：日野原健司、渡邊晃
発行：株式会社小学館(令和2年9月)

⑤ 以下の展覧会の開催にあわせ、「オンライン展覧会」と銘打った記事を執筆し、メディアプラットフォーム「note」を利用して有料で配信した。詳細は「3. 浮世絵美術ならびに江戸文化の啓蒙普及活動」に記載。

- ・「和装男子—江戸の粋と色気」展
- ・「没後30年記念 笠松紫浪—最後の新版画」展 前期(展覧会期中のみの期間限定配信)
- ・「没後30年記念 笠松紫浪—最後の新版画」展 後期(展覧会期中のみの期間限定配信)

- ⑥「江戸の土木」展について、「オンライン展覧会」と銘打った記事を執筆し、noteを利用して展覧会アーカイブとして、有料で配信した。

6. 美術館の運営

1) 美術館改修工事

昨年度に引き続き、老朽化した設備を中心に改修工事を行った。主な工事内容は以下のとおり。
排煙設備更新工事、美術館外部サイン更新工事 他

2) 施設の整備

- ① 来館者が安全、快適に過ごせるよう、適切な保全管理に努めた。
- ② 7月からの開館再開にあたり、展示室ガラス除菌清掃を行った。
- ③ 展示室空調機の部品交換工事を行った。
- ④ 消防設備点検において指摘を受けた誘導灯不良箇所の交換工事を行った。
- ⑤ 視聴覚室内の殺カビ防カビ施工を行った。

3) 新型コロナウイルスへの対応

- ① 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年3月1日から末日まで臨時休館し、4月1日より土日祝日の臨時休館を前提に開館再開するも、4月7日発出の緊急事態宣言を受けて、7日当日は12時で急遽閉館し、4月8日から6月末日までの展覧会期66日間を臨時休館した。
- ② 令和3年1月7日発出の緊急事態宣言を受け、1月8日から3月末日までの会期中63日間、来館客および関係者の安全確保のため、開館時間を30分短縮した。
- ③ 「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」(公益財団法人日本博物館協会)に沿い、主に以下の取り組みをした。
 - ・ 入館客およびスタッフのマスク常時着用を徹底した。
 - ・ 美術館入口にアルコール消毒液を設置し、入館にあたり手指消毒の協力を呼びかけた。
 - ・ 美術館入口、手すり、トイレなど、多くの入館者の手が触れる箇所について、消毒および清掃を強化した。
 - ・ 感染症への注意喚起ポスターを美術館入口およびトイレに掲示した。
 - ・ 当館の感染症防止対策、来館者へのお願いを館内に掲示し、ウェブサイト上にも随時情報を更新した。
 - ・ 当館ウェブサイトおよびツイッターにて新型コロナウイルスへの対応状況を随時更新した。
 - ・ 展示室内の3密(密閉・密集・密接)回避のため、1・2階展示スペースを一部閉鎖し、地下視聴覚室を展示室として使用した。また、団体での入館を当面の間中止とした。

4) その他

- ・ 理事、浮世絵研究助成選考委員の竹内誠氏が令和2年9月6日に逝去された。
- ・ 評議員の有馬朗人氏が令和2年12月6日に逝去された。

II 収益事業(美術館建物の一部を店舗として賃貸する事業)

美術館建物の地下の一部を、てぬぐい専門店である株式会社かまわぬに賃貸した。

Ⅲ 理事会・評議員会等の開催

令和2年6月16日	令和2年度第1回理事会(決議の省略)	
決議事項	2019年度(令和元年度)事業報告および収支決算の承認の件	書面決議
	美術館改修工事資金の承認の件	書面決議
	評議員会開催の件	書面決議
令和2年6月24日	令和2年度第1回評議員会(決議の省略)	
決議事項	2019年度(令和元年度)事業報告および収支決算の承認の件	書面決議
令和3年3月18日	令和2年度第2回理事会(決議の省略)	
決議事項	令和3年度事業計画および収支予算承認の件	書面決議

Ⅳ 官公庁への届出等

令和2年6月26日	内閣府へ事業報告等の提出(令和元年度)を電子申請
令和2年10月20日	内閣府へ変更の届出(理事の退任)を電子申請
令和3年2月17日	内閣府へ変更の届出(評議員の退任)を電子申請
令和3年3月23日	内閣府へ事業計画書等の提出(令和3年度)を電子申請

令和2年度事業報告の附属明細書について

令和2年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和3年6月

公益財団法人 太田記念美術館